

DD (情報不足)

コイ目 コイ科

カテゴリー判定基準：a), b), c)

ヤマナカハヤ

Phoxinus lagowskii yamamotis (Jordan & Hubbs, 1925)

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1999	2007
—	DD	DD

日本固有亜種

ヤマナカハヤはアブラハヤ (*P. l. steindachneri*) の別亜種で、山梨県富士五湖の山中湖、河口湖、本栖湖から記録されている。アブラハヤとの識別点は、体側の縦帯が顕著であること、頭が大きく尾柄高が低いこととされる（尾柄高頭長比は34.5~45.5%、平均39.5%、アブラハヤでは37.5~57.5%、平均44.9%）。形態的特徴から止水環境に適応した生態を示すことが予想されるが、ヤマナカハヤの生活環およびアブラハヤとの類縁関係は情報が不足しており、不明のままである。本亜種は、昭和初期頃までは多産していたようだが、ワカサギ (*Hypomesus nipponensis*) の導入を契機に減少したとの報告がある (56-1)。さらに富士五湖には山梨県により漁業権魚種として認定された国外外来種のブラックバスや、ブラウントラウトなどの捕食者となる魚種が放流されたこともあり (52-3)、現在では採集または確認の記録が途絶えている。もっとも近年の採捕記録としては、1980年に本栖湖で採捕された情報（文献にはアブラハヤとして記録）がある。本亜種の生息状況については、富士五湖のみならず相模川水系や富士川水系などの周辺水域を含めた地域の綿密な調査を行う必要がある。

参考文献

- 藤田朝彦・大浜秀樹・細谷和海, 2005. ヤマナカハヤの形態学的特徴と生息現況. 魚類学雑誌, 52: 21-26.
細谷和海, 2000. コイ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索：第二版, pp. 253-272, 1465-1468. 東海大学出版会, 東京.
池田兵司, 1939. 山中湖のアブラハヤに就て 附 山中湖産淡水魚類概説. 博物学雑誌, 37: 70-75.
Jordan, D. S. and C. L. Hubbs, 1925. Record of fishes obtained by David Starr Jordan in Japan, 1922. Mem. Carnegie Mus., 10: 93-347.
中村守純・竹内直政・河合春子, 1971. 富士五湖の淡水魚類. 国立公園協会 (編), 富士山-富士山総合学術報告書一, pp. 952-958. 富士急行, 東京.
高橋一考, 1999. 富士五湖と四尾連湖の生息魚類の変遷. 山梨県水産技術センター事業報告書, 26: 57-80.

執筆者：藤田朝彦 (株式会社建設環境研究所)

コイ目 ドジョウ科

カテゴリー判定基準：a)

ドジョウ

Misgurnus anguillicaudatus (Cantor, 1842)

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1999	2007
—	—	—

体は細長く、やや側偏する。口髭は10本。体色は淡褐色~暗褐色で、暗色斑が散在することもある。全長15cm。メスの方が大きくなる。オスの胸鰭は先端が尖り、メスでは丸みを帯びる。河川中・下流域、用水路などの流れの緩やかな泥底にすみ、初夏に水田など浅い湿地に進入して産卵する。日本各地、中国大陸・台湾島・朝鮮半島に分布する。核とmtDNAの解析結果から、分布域全体で大きく二系統が認められ、一方は過去の遺伝子浸透によりシマドジョウ類のmtDNAを有している。近年の河川改修、水田地帯における用水路の三面護岸化や用排水路化などにより生息地、繁殖場が減少し (15-1、2)、農業 (32)、家庭排水や産業排水の影響 (31) で生息条件も悪化している。また、国外産近縁種カラドジョウ (*Misgurnus dabryanus*) の侵入により、競合が生じているおそれがある (56-1)。近年、国外・国内他地域産の個体が食材や釣り餌、希少鳥類の餌など、様々な形で流通しており、水田養殖の逸出、その他遺棄などによって在来個体群の生息域に広がり、遺伝的な攪乱を引き起こしている (71)。沖縄島の集団はカラドジョウとの中間的な形態を示す特異な個体群である。

参考文献

- 小出水規行・竹村武士・渡部恵司・森淳, 2009. ミトコンドリアDNAによるドジョウの遺伝特性-チトクロームb遺伝子の塩基配列による系統解析-. 農業農村工学会論文集, 259: 7-16.
Morishima, K., Y. Nakamura-Shiokawa, E. Bando, Y. J. Li, A. Boron, M. M. Khan and K. Arai, 2008. Cryptic clonal lineages and genetic diversity in the loach *Misgurnus anguillicaudatus* (Teleostei: Cobitidae) inferred from nuclear and mitochondrial DNA analyses. Genetica, 132: 159-171.
清水孝昭・鈴木寿之・高木基裕・大迫尚晴, 2011. 沖縄島と西表島より得られたドジョウの形態的・遺伝的特徴. 日本生物地理学会会報, 66: 141-153.
清水孝昭・高木基裕, 2010. ミトコンドリアDNAによる愛媛県を中心としたドジョウの遺伝的集団構造と攪乱. 魚類学雑誌, 57(1): 13-26.
Šlechtová, V., J. Bohlen and A. Perdices, 2008. Molecular phylogeny of the freshwater fish family Cobitidae (Cypriniformes: Teleostei): Delimitation of genera, mitochondrial introgression and evolution of sexual dimorphism. Mol. Phylogenet. Evol., 47: 812-831.
吉郷英範, 2007. 山口県東部で採集された外来の可能性のあるドジョウ属 (コイ目ドジョウ科). 比婆科学, 223: 7-20.

執筆者：清水孝昭 (愛媛県農林水産研究所水産研究センター)